

掲示板のことは

読むとは
コトバに
照らされた
未知の自己と
出会うこと
でもある
若松英輔

2020. 12

この言葉は、若松英輔さんの著書『不滅の哲学 池田晶子』の中に記されています。ここで言う「コトバ」は単なる言語ではないようです。

若松さんは、「コトバは言語でもあり得るが、ときに色であり、音であり、また芳香あるいは、かたちでもある。温かみや寄り添う感触、不可視な存在感として感じられることもあるだろう」と言われています。そして「コトバは、魂にふれる。また、ときに、私たち自身よりも私たちの魂に近づくこともできる」と続きます。

たとえば、小説などを読んでいて、今までは気づかなかった感情が沸き起こってくることや、自分自身の物語を体験しているような気持ちになったことがないでしょうか？ 僕はあります。

それはおそらく、そこに描かれている物語、または表現されているコトバが、自分の中の何か…、魂と言ってもいいかもしれませんが、この自分の内面の世界に触れているのだと思います。

物語を読むことは、自分が今まで経験したことのない世界を生きることができ、それが、今まで感じたこともない自分自身に出会うことになるのかもしれませんが。文学作品でも、絵本でも、エッセイでも、歌の歌詞でも。

文字を読むことに限りません。他者の声を聞くことも、遠くから呼びかける声に耳を澄ますことも、読むことなのだと思います。聞くことも、読むことです。

コトバに照らされ未知の自己に出会う、素敵なことだと思いますか。

真宗大谷派 光明寺住職 小林尚樹